

第3章 教育活動の例

1 教育活動改善の具体策

(1) 教育活動改善の基本的な視点及び各教科，領域等の授業改善の具体的視点

第1章及び第2章において、「キャリア教育が目指すもの」や「キャリア教育の視点に立った教育活動」について述べてきた。これを踏まえて，第3章では教育活動改善の具体策を述べていく。まず，教育活動の具体策を導き出す前に，「キャリア教育は，教育活動全体で取り組むものであり，新たな教育課程を創設したり，特定の時間を設定したりすることではない。」ということを理解しておくことが大切である。

また，キャリア教育全体計画及び授業計画を作成する際は，以下の視点に留意して作成することが望ましい。

ア 教育活動改善の基本的な視点

教育活動改善の基本的な視点は，次の3点にまとめることができる。

- ・ 学校は，児童生徒が自分の生き方をできるだけ多くの大人と話題にするきっかけをつくる。
- ・ 教職員は，児童生徒が生き方，働き方の目標に対してどの程度近づいているかの見届けや目標達成に向けた支援の方策を工夫する。
- ・ 家庭や地域社会においても，児童生徒の生き方，働き方を話題にしたコミュニケーションが積極的に，また，多面的に展開される必要がある。そこで，教職員は，児童生徒の状況に関する学校からの情報を家庭や地域社会が共有できるよう，情報の発信を積極的に推進する。

イ 各教科，領域の授業改善の具体的視点

教育活動改善の基本的な視点を踏まえて，各教科，領域の授業を次の視点で改善していく。

自分を見つめる活動

自分を振り返る活動

自分のよさを実感する活動

なりたい自分に気付いたり，なりたい自分を見付けたりするような体験

なりたい自分に向けて努力する過程

なりたい自分に近づいている様子を実感し，発信する活動

これらの活動や体験を意図的，計画的に位置付ける。

以下，各事例に吹き出しの形で，留意点を示すので，参考にしてほしい。

(2) キャリア教育全体計画例

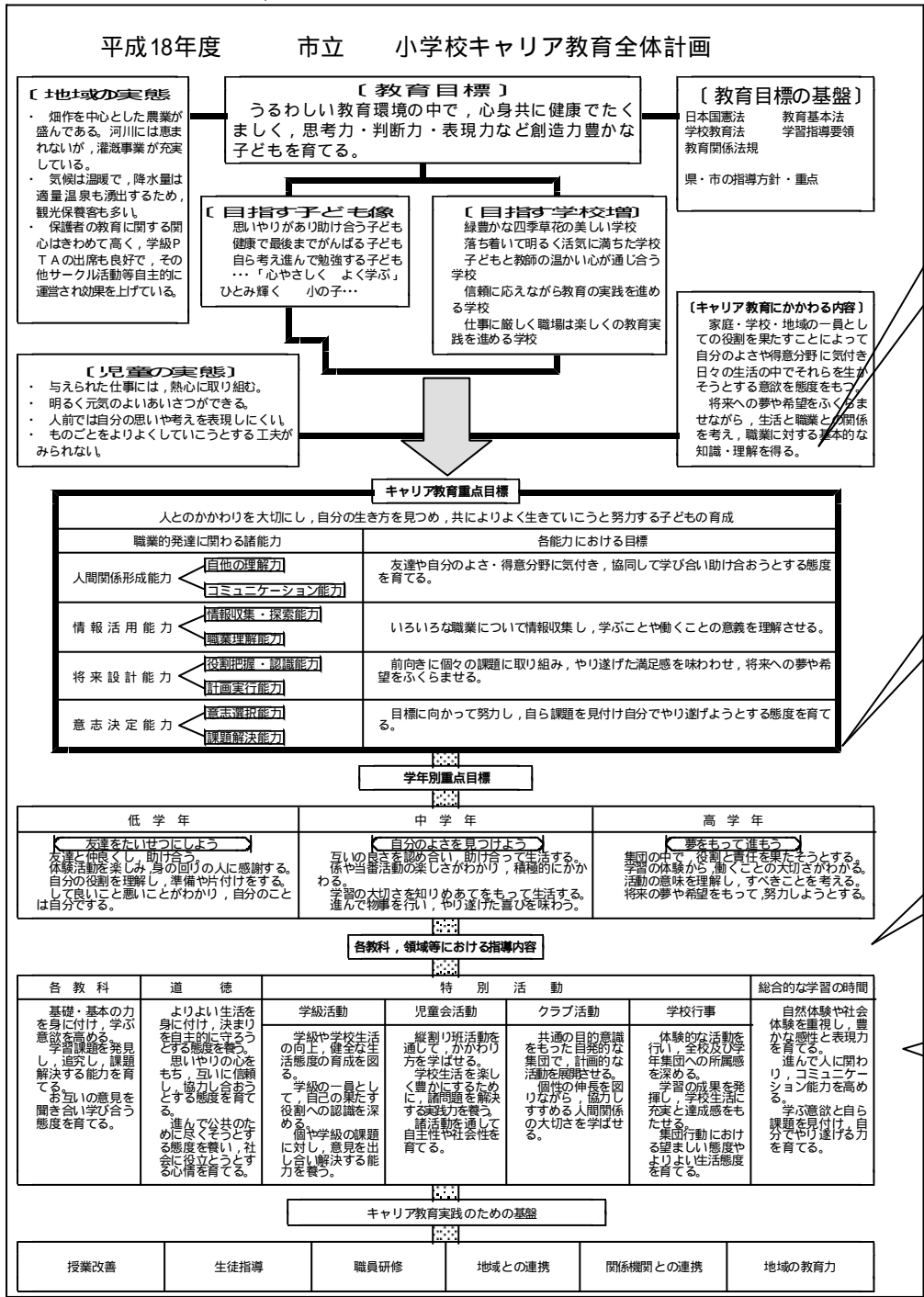
キャリア教育全体計画は，学校教育目標の実現に向けて学校教育推進上のキャリア教育の位置付けを示したものであり，キャリア教育に対する学校の基本的な考え方を示したものである。組織的・計画的なキャリア教育を展開するために，全体計画の中には，学校教育目標やキャリア教育重点目標（キャリア教育ではなくむべき能力），各学年の目標，各教科，領域等における指導

内容などを明示することが考えられる。また、キャリア教育推進上の留意点の記載や重点教科，領域等の明示など，各学校で創意工夫をして作成することが大切である。

次に示すのは，小学校の全体計画例である。

学校教育目標の実現のために，キャリア教育の位置付けを示したものがキャリア教育全体計画です。つまり，キャリア教育の学校教育目標における位置付けを明確にする必要があるということです。

児童の実態，保護者，地域の願いを踏まえた上で，学校教育目標の下，各学年，各教科，領域の目標や内容などをキャリア教育の視点でどのように位置付けていくか考える必要があります。



全体計画の中には，キャリア教育ではぐくむべき能力を，例えば，国立教育政策研究所の「職業観・勤労観を育む学習プログラム」の枠組み（例）を参考に設定する必要があります。

児童生徒の発達段階を考慮する必要があります。したがって，キャリア教育の視点で，各学年の目標を関連付けることが大切です。

各教科，領域等における指導内容をキャリア教育の視点から明確にしておくことが大切です。そして，それぞれの関連を図ることが重要です。

学校教育活動全体を通して，キャリア教育を展開していくこととなりますが，学校の実態によっては，各教科，領域等の中の一つを核として重点的に取り組む場合も考えられます。

(3) 各教科，領域等の全体計画作成例

全体計画の作成に当たっては，いずれの教科，領域等においても，目標とするべきものが自校なりに適切に立てられているかを見直すことが大切である。

ここでは，教育活動をどのように改善していくかを，総合的な学習の時間を例に，具体的に述べていく。

自校の総合的な学習の時間の目標をしっかり立てることが大切です。目標という土台がしっかりすると，総合的な学習の時間の基本的な考え方や目指す子ども像，具体的内容の方向性が決まることとなります。

総合的な学習の時間（くろしおタイム）全体計画

- 1 本校の目指す「総合的な学習の時間」について
 (1) 本校の「総合的な学習の時間」の目標

環境（自然環境，人的・社会的環境）との関わりについて，主体的に問題を追究し，自分の考えを表現することにより，総合的な知識や技能・学び方を身に付け，よりよく生きようとして行動する意欲や態度を育てる。

本校においては，学校教育目標，今日的教育課題や子どもの実態，保護者・教師の願いを踏まえて「環境」を核として「総合的な学習の時間」を体系化し，体験を通して総合的な知識や技能・学び方を身に付けさせ，思いやりとやる気にあふれ，やさしさをもってよりよく生きようとする人間の育成に努めたいと考えている。
 そして，子どもたちは，一人一人が自分なりのよさを発揮しながら，様々なことにチャレンジすることで，やる気と自信をはくくみ，自分らしさを発見していくであろうと考える。
 さらに，総合的な学習の時間は，子ども一人一人が自己を見つめ直し，自分の思いや願いを大切にしながら，進んで困難にも挑戦する力を身に付けさせる時間でもあり，失敗してもチャレンジしたことが評価される時間でもあったと考える。

キャリア教育の視点から総合的な学習の時間の目標を見直すことが大切です。見直していくと，キャリア教育のねらいと重複するところが多く，言い換えればキャリア教育そのものだと云えます。

- (2) 本校の目指す「総合的な学習の時間」の基本的な考え方

総合的な学習の時間のねらいは，・・・将来の様々な困難や課題にきちんと向き合い，自ら解決していこうとする「生きる力」をはくくむことにある。
 このような趣旨を踏まえると，知識内容を教え込むのではなく，また，学習した結果を求めるのではなく，課題発見の方法，課題追究の方法，学習の手順やまとめ方，学び方そのものを問題解決や追究活動を行う過程の中で，体験を通して身に付けていくことが大切である。・・・そこで，本校の目指す総合的な学習の時間の基本的な考え方を以下のように整理した。

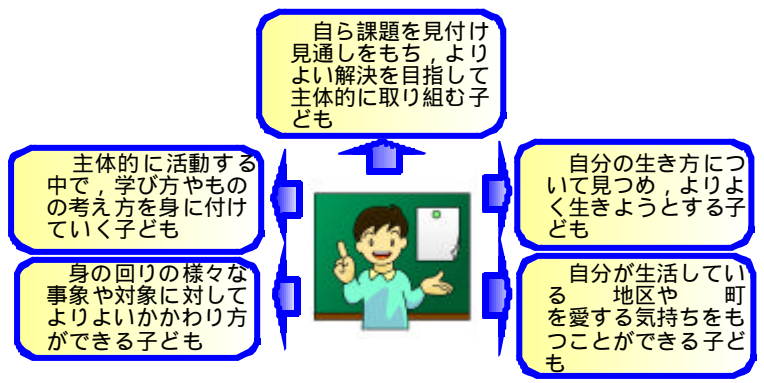
子どもたちの身の回りの事象に素朴な疑問や問題意識，思いや願いなどを生かした課題を設定し，学ぶ必然性を感じることができる。
 指導計画が絶対的・固定的なものではなく，学ぶ内容を子ども一人一人が自己選択，自己決定することができる。
 自らの課題に主体的に取り組む中で，情報の集め方や調べ方，まとめ方，報告や発表，討論の仕方といった学び方や，ものの考え方を養うことができる。
 知識として学んだり，結果を求めたりするのではなく，活動の過程を重視しながら，子ども一人一人が自分なりの学習の成果を実感することができる。
 問題解決や追究活動に主体的，創造的に取り組む態度を育て，よりよい生き方を考える基礎を養うことができる。

総合的な学習の時間で，はくくむべき力は，キャリア教育ではくくみたい「自らを更に成長させるための課題解決，困難克服に粘り強く取り組む」力と同一のものであります。

体験を通して，何を身に付けさせたいか明確にする必要があります。そうすることで，体験が児童生徒にとって価値あるものとなります。

自校の基本的な考え方を具体的に明らかにしておくことが大切です。

- (3) 「総合的な学習の時間」によって目指す子ども像



キャリア教育の視点からも具体的な目指す子ども像を明らかにしておくことが大切です。
 キャリア教育ではくくみたい諸能力（例えば，国立教育政策研究所の「職業観・勤労観を育むプログラムの枠組み（例）」を参考にする。）の視点からも考えられます。

なりたい自分を見付け，それに向けて努力していける力を，目指す子ども像の中に入れることも大切です。